

## 令和5年度第4回一関・平泉定住自立圏共生ビジョン懇談会 会議録

- 1 会議名 令和5年度第4回一関・平泉定住自立圏共生ビジョン懇談会
- 2 開催日時 令和6年3月18日(木) 午後2時から午後3時30分まで
- 3 開催場所 一関市役所3階 特別会議室
- 4 出席者
  - (1) 委員 岩渕豊子委員、小田島達哉委員、金澤英治委員、  
栗生澤奈生子委員、児玉進委員、佐々木牧恵委員、  
佐藤一則委員、菅原清忠委員、菅原敏委員、鈴木和博委員(副会長)、  
須田志優委員、立尾英司委員、寺崎敏子委員、  
徳谷喜久子委員、南洞法玲委員、畠中良之委員(会長)、  
山平功二委員  
※オンライン参加 菅原清忠委員、菅原敏委員、須田志優委員  
※欠席者 石川加津子委員、大浪友子委員、小野寺悦子委員
  - (2) オブザーバー 松本英雄平泉町まちづくり推進課長、  
高橋麻美平泉町まちづくり推進課長補佐
  - (3) 事務局 菅原稔市長公室長、飯村昌弘市長公室次長兼政策企画課長、  
鈴木敏宏政策企画課長補佐兼政策推進係長、  
渡辺苑子政策企画課主任主事、谷藤義拓政策企画課主任主事

### 5 議 題

- (1) パブリックコメント等での意見、提言について
- (2) 第3次一関・平泉定住自立圏共生ビジョンについて
- (3) 令和6年度定住自立圏共生ビジョン懇談会の開催スケジュールについて

### 6 公開、非公開の別 公開

### 7 傍聴者の数 2人

### 8 会長挨拶

本日の会議では、第3次一関・平泉定住自立圏共生ビジョンの骨格が事務局から示されている。

事務局からは、委員の皆様から様々なご意見をいただきたいということを伝えられているので、活発な議論がなされることを期待して会長の挨拶とさせていただきます。

### 9 審議内容

- (1) 第3次一関・平泉定住自立圏共生ビジョンの素案について及び(2)第3次一関・平泉定住自立圏共生ビジョンについて

事務局から資料No. 1 - 1、資料No. 1 - 2、資料No. 1 - 3、資料No. 2 - 1、資料No. 2 - 2に基づき説明を行った。以下、質疑応答等。

委員 資料2 - 2、36ページのデジタル・ディバイドの意味を教えてください。

事務局 デジタル・ディバイドは情報機器を利用できないことによる格差という意味である。

会長 役所では往々にあることなので、意味の分からないものは質問していただきたい。

第3次一関・平泉定住自立圏共生ビジョン（案）が出され、それぞれご確認いただいていると思うが、主に削除された部分と追加された部分の説明があった。

今から新しい事業を追加するなどの意見を反映するというのは難しいと思うが、分からない部分や具体的に聞きたいことなど、まずはご質問からお伺いしたい。

なければご意見も併せてお伺いしたい。

委員 以前からお願いをしていた多文化共生推進事業を取り上げていただき、ありがとうございます。

良い取組であると思うが、成果指標の多文化共生事業への参加者数は、具体的に何の事業に参加する人数を指しているものか。

事務局 一関市や平泉町が開催する国際交流に関する事業への参加者数や国際交流の理解促進に係るセミナーへの参加人数を指している。

委員 先日開催されたベトナム人の旧正月のイベントには100人近くが集まっていたと思うが、その人数はカウントされるものか。

会長 成果指標がよくわからないというものは発言していただいて、目標値を設定するのはよいが、具体的に何のために行うものか確認をお願いしたい。

委員 人口減少について、数年前までは年間約1,500人の減少であったものが、現在は約1,700人の減少となっている。

1人当たりの年間消費が約120万円なので、毎年20億円の消費が減少していくことが確定している。

そのために交流人口の増加など、様々な活動を行いカバーしていくということが前提にあるということを理解している。

資料No. 1 - 3のNo. 1について、意見に対して考え方を回答していただいているが、地域内の方々にも熱気球を体感していただくことが、魅力発信の一助になると記載されているが、果たしてそうなるのか。

おそらく市職員も疑問に感じていると思うが、主目的は何かということを考え、当初の目的設定から変わるとしても変更、訂正を検討することが必要であると感じている。

資料No. 1 - 3 のNo. 3 について、ファン層を拡大させ、消費行動を促すことが、資産価値の向上、保存管理につながるという仮説を立てている。

そのためには、ファン層拡大を含めガイドツアーを恒常的に実施する必要があると考えている。

年に数回ガイドツアーを行っていることは承知しているが、それだけではファン層拡大につながらない。

地域外の方に骨寺村荘園遺跡のことを聞いても、知らない方が多い。

私は何度も申し上げているが、素晴らしい資産であると考えており、知っていただき、ファンになっていただき、農産物を購入したい、関わっていききたいという方が必ず増えると思うので、税金を投入するというだけではなく、ファン層拡大により保存していくことを見据えた中で、ガイドツアーを恒常的に実施することを想定していただきたく、意見させていただいた。

ガイドツアーの参加者数が含まれていることは承知したが、意識を変えていただきたいということを趣旨として挙げているので、もう一度検討していただけないかお願いして、意見とさせていただく。

会 長 ありがとうございます。

1点確認させていただくが、一関・平泉バルーンフェスティバルの主目的は何であると考えているか。

委 員 I L C が関係していると考えている。

先ほど述べたとおり、主目的が変わっていくことは時世が変わる中で当然有り得ることであるが、少し無理があると思っている。

会 長 事務局で検討していただきたい。

その他、ご意見ご質問があればお伺いする。

委 員 資料No. 1 - 3 のNo. 5、6 の子育てに関して、人口が減少することにより、子どもの人数も減るということはわかっているが、子育て支援や子育て世代の負担軽減事業はもっと広がるはずである。

先日の一関市子ども・子育て会議でも話をしたが、地域が子育てにどのように関わっていくかということが、重要な仕組みになっていくはずである。

施策の中に地域がどのように子育てに関わっていくかを謳わなければ、人口減少の中で子育てが大変になっていくものと思っている。

人口減少に関わる部分に対して、施策をどのように展開していくのかということを検討していただきたい。

2点目は資料No.2にある施策の取組であるが、以前に意見もあったと思うが、数を減らし、重点的に施策を行ってもよいのではないかと思う。

人口が減少していく中で、取組を絞っていかなければならないと思っているし、それに対してDXがどのような関わりを持って施策の中で展開していくかということが見えていないところがあるので、その辺りが見えてくるとよいと思っている。

会 長 1点目は、資料No.1-3にある子育ての目標値が人口減少によりマイナスとなっていることに対し、地域が子育てに関わっていく施策を入れられないかというもの。

2点目は、具体的な取組について施策を絞り込んでいく考え方はないかというご意見であるが、事務局から回答は可能か。

事務局 人口減少の推移を説明させていただいたが、減少は税収の減に繋がっていくものと捉えている。

そうすると、委員の話のとおり施策の選択ということが出てくると思うので、意見については検討を進めていきたいと思う。

会 長 地域での子育てが重要だというご意見だった。

こちらについては総合計画等と合わせていく必要があると思うので、事務局から伝えていただきたい。

その他、ご意見ご質問をお伺いする。

委 員 資料No.2-1の施策について、地域おこし協力隊の方が全体に関わっている傾向がわかるが、地域おこし協力隊の任期終了により事業が終了し、具体的な取組から削除というものがある。

地域おこし協力隊の任期が3年間ということは承知しているが、任期終了により事業も終わりではなく、目標に到達しているかなどの検証を行い、3年間で具体的な取組から削除としないようにしていただきたい。

会 長 任期終了により具体的な取組から削除ではなく、実績の記載等工夫をしていただきたい。

事務局から説明があったとおり、具体的な取組は予算等の兼ね合いがあるので、意見により新しい事業を始めるというのは難しいと思うが、意見があったように成果指標や成果の検証などについての説明を求めることが私たちの仕事ではないかと思う。

他にあればお伺いする。

委員 資料No.2-2の14ページ観光地間二次交通整備事業について、こちらは狛鼻溪平泉線のことを指しており、1日に3便が運行されていると思うが、利用者からすると有効ではない時間設定があるため、検証が必要である。

また、季節運行であり、冬期間は二次交通の運行を行っていないため、一ノ関駅から平泉に行き、狛鼻溪に行くという方は、平泉から狛鼻溪にタクシーで行くと高額であり、安価な方法となると一ノ関駅に戻らなければならないので、時間が掛かってしまう。

駅の役割というものも非常に重要になるため、一ノ関駅から平泉、平泉から狛鼻溪へご案内できないかということも駅にも相談はしている。

そのようなことを含め、この二次交通整備事業を検討していただきたい。

会長 二次交通については、利用する観光客の立場になって検討をしていただきたいというご意見だと思う。

(3) 令和6年度定住自立圏共生ビジョン懇談会の開催スケジュールについて、事務局から資料No.3-1、資料No.3-2に基づき説明を行った。以下、質疑応答。

会長 基本的に開催回数は年2回とご理解いただければよい。

事務局案では5月と10月の2回開催で、5月に事業の内容や予算などにご意見をいただき、事務局から各課にフィードバックを行い、検討していただくという内容である。

3月の開催がなくなるということで、5月と10月開催であれば、委員と事務局もフリーの時間が多いので、人口減少や少子高齢化に対する施策について様々なご意見を発言いただくということが委員の役割と考えている。

全体を通して、ご意見ご質問があればお伺いする。

委員 スケジュールに関して、市町で連携して取り組む方がよいと思われる事業が沢山入ると思うが、市町が連携して取組を行うための話合いの場面等の今後の進め方についてお伺いする。

事務局 ご意見については、事務局から各課と平泉町へフィードバックを行い、市町の担当部署が連携し、現在の取組や意見に対する考え方、連携して取り組む事業の検討等を行っていただきたいと考えている。

委員 市町の担当者が話合いをできる場面を事務局で準備していただけるとありがたい。

会長 ご要望としてお受けする。

その他、ご意見ご質問をお伺いする。

委員 資料No.2-1の将来推計人口と展望人口について、展望人口というものは、将来推計人口に対して施策等を実施し、その上で人口がどのように変化するというものを見ていると思うが、次回5月の懇談会で、奥州・北上・金ケ崎・西和賀の将来推計人口と展望人口について資料を提出していただきたい。

会長 事務局で準備していただきたい。

その他、ご意見等なければ協議は以上とする。

10 担当課 市長公室政策企画課